

令和6年度 第3回飯田市行財政改革推進委員会 議事録

日時：令和6年8月29日（木）15：00～17：00

場所：本庁舎A棟2階 203・204会議室

出席者：下平会長、畠中委員、村松委員、北原委員、胡桃澤委員、和田委員、嵩田委員、山崎委員、今村委員（匡）、森下委員、松村委員、篠田委員、熊谷委員
高田副市長（行財政改革推進本部長）、清水総務部長、佐々木財政課長、澤柳企画課長、伊藤人事課長

欠席者：今村委員（紀）、市瀬委員

1 開会

2 任命書交付

（清水総務部長）

任命書交付だが、新たに1名の方に委員をお願いする。任期に関しては、前任の任期を引き継いで、令和6年度までとなる。名簿のNo. 3 北原 正志様であり、副市長の高田より交付する。

任命書を交付した委員より、自己紹介をお願いする。

（北原委員）

前任に引継ぎ、しんきん南信州地域研究所の地域サポート部より出向している。皆様のお役に立てるように務めていきたい。よろしくお願い申し上げます。

3 あいさつ

（下平会長）

本日はお忙しい中、また、多くの方にご出席を賜り感謝申し上げます。

現在、台風10号が飯田市を直撃するという進路予測が出ている。9月1日には防災訓練があり、実施できるかどうかの判断を迫られている状況である。また、8月8日に日向灘で発生した地震により、初めて南海トラフ地震臨時情報が発表され、緊張した日々を過ごした。地震はいつ発生するかわからないため、今後は防災面で気を遣う場面が多々あるように感じる。また、岸田総理が総裁選への不出馬を表明し、地方行政が振り回されるようなこともあるが、それとは別に、しっかりと飯田市行財政改革大綱を進めていくことをお願い申し上げます。

さて、本委員会は、今年度3回目の行財政改革推進委員会となる。本日は、前回の委員会で市長より諮問があった次期・飯田市行財政改革大綱の方向性について協議を行う。今回と次回の推進委員会で連続して協議を行い、諮問事項について答申をまとめいく予定である。前回の説明と、事前に送付された資料をもとに、改めて説明を受け、これまでの取組や現状を認識したうえで、それぞれのお立場からご意見や提案等をいただきたい。

本日も、しっかりとご協議をいただくことをお願い申し上げて、会長の挨拶とする。

（高田副市長）

本日はお忙しい中、ご出席を賜り感謝申し上げます。本年度、第3回目の行財政改革推進委員会となる。

下平会長からもお話があったが、8月8日の夕方に日向灘で地震が発生し、検討委員会で調査が始

まり、19時過ぎに南海トラフ地震臨時情報が注意という形で発表された。飯田市でもスーパーの水が売り切れるという状況であった。できるだけ冷静に、且つ、注意を喚起するという情報であったが、この情報の発信のされ方について、とても難しいと改めて感じた。また、9月1日に防災訓練を予定しているが、台風10号が心配な状況である。非常に歩みの遅い台風であり、情報を見るたびに進路が変更になっており、飯田市にどのような影響が起きるのかいまだにわからない状況である。防災訓練の実施も含めて、飯田市からの情報にご留意いただきたい。

前回の行財政改革推進委員会にご出席いただいた委員の皆様には、指定管理施設の運用についてしっかりとご質問、ご意見をいただいた。貴重なご意見を参考にさせていただき、庁内で運営方針の決定をさせていただいた。現在は、次年度からの指定管理者の選定に向けて手続を進めており、12月の議会で正式に議決をいただく予定であるので、よろしくお願い申し上げる。

また、前回の飯田市行財政改革推進委員会では、次期・飯田市行財政改革大綱の方向性について諮問を行わせていただいた。本日はご協議をいただくが、資料をもとに改めてしっかりと説明させていただくので、ご意見を頂戴したい。

次期・飯田市行財政改革大綱は令和7年度から4年間となるが、この4年間で飯田市にとってどのような位置づけになるのか、お話をさせていただく。これから飯田市として、リニア中央新幹線の長野県駅の広場整備や、新文化会館の整備が俎上にのぼってくる。その具体的な計画をつくり、長期の財政見通しを立てることが、これからの4年間の大切な仕事であると私は考えている。そのためにも、しっかりと財政基盤をつくること、行政運営をしていくための人材確保・育成が大事である。このようなことを念頭に置いていただきつつ、本日の説明を聞いていただき、ご意見を賜ることをお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

4 確認事項

(1) 次期行財政改革大綱の方向性について 【佐々木財政課長説明】

ア 前回振り返り

- ・飯田市行財政改革大綱（2025年度～2028年度）の方向性 たたき台（概要） 資料1
 - ・調査審議（諮問）にあたっての検討資料（修正版） 資料2
 - ・補助説明資料（①行財政改革の体系、②行財政改革の用語） 資料3
- ※質問・意見なし

イ 次期・飯田市行財政改革大綱の方向性に関する意見等について

- ・次期・飯田市行財政改革大綱の方向性に関する意見等のまとめと考え方 資料4
 - ・財政見通しにおける財政運営目標について 当日配布
- ※質問・意見なし

ウ 答申に向けた意見交換

- ・答申書（案） 当日配布
（下平会長）

重要なことであるため、各委員に一言ずつ意見をいただきたい。

（畠中委員）

答申案について、一番心配しているのは人材確保についてである。「2 ア 行政の仕組みづくり・人づくりは、職員定員を基本とする中での適正配置を期待する。」とあるが、市職員の確保に対する対策がどうなっているのか懸念される。

財政的には世の中は不景気であり、リニア中央新幹線の開通がいつになるのか不明な状況で駅周

辺の整備を進めるといった意見も出ているが、供用開始されない限りは、経済効果、維持も難しいと感じる。静岡工区ができないのであれば、せめて飯田市～名古屋市で完成した部分を早く供用できるようにしてほしいという意見も一部では出ているので、今後の飯田市の財政に鑑みていただきたい。

人口減少、生産年齢人口が極端に減少している中で、行政サービスを維持していくことは非常に難しいことであると感じるが、予測通りの数字で進めていけるかは不透明なことであるため、しっかりと組立てていってほしい。

(清水総務部長)

飯田市役所の応募者全体からすると、ピークよりは少なくなっているのが現実である。飯田市立病院の看護師などの専門職についても、人材確保は非常に苦しいのが現状である。今後も様々な手を尽くして、確保していきたい。

(村松委員)

答申案の「2のウ 行政サービスの提供は、行政サービスのデジタル化の推進に期待する。」に関しては、今後市職員が減少する中で業務の円滑化につながる部分であるため、ぜひ推進していただきたい。

「3の人口減少・少子高齢化」の件で、予測では2045年には約75,000まで減少すると推計されているが、減少を前提として飯田市行財政改革大綱を策定することは当然のことであるが、減少に対する政策も同時進行で進めていただきたい。

(北原委員)

たたき台の「②公共施設の老朽化」について、前回の行財政改革推進委員会の資料など、様々な資料を見させていただき、積極的な話し合いが行われており非常に感心した。今後、管理ができない建物に関しては、積極的に売却を進めていただきたい。

また、「アプローチ(3)人づくりによる組織風土改革」について、体調の悪い市職員が多いと話に聞くので、メンタルヘルスはとても大切なことだと感じる。

(胡桃澤委員)

我々が答申した内容が、着実に実行されているか第三者機関などを設置して、報告することをご検討いただきたい。

(山崎委員)

資料4の2ページに「観光分野に限らず、各政策分野を担う職員の知識や見解の高度化・専門化が必須であり、その職員が能力を十分に発揮し、困難な課題を解決したり、新たな価値を生み出したりできる人材に育つことにより、観光分野をはじめ、魅力的なまちづくりが進み、経済的な利益の増加につながり、結果的に歳入確保にもつながる」と記載されており、私も歳入確保に関しての具体例を考えてみた。私の地元には霜月祭りがあり、宿泊客も多くなる。市の施設を借りて宿泊業を行っている施設の宿泊客も増加しており、実際に歳入確保につながっている。

また、「職員の知識や見解の高度化・専門化が必須」と記載されているが、例えば、ITパスポートの資格を取得した際に、市として資格取得祝い金のような制度を導入することによって、より職員のやる気が上がり、結果として歳入確保にもつながるのではないかと。

(今村委員(匡))

村松委員からも話があったが、人口減少に向けての対策も必要であるが、リニア中央新幹線開業に向けての人口増加を視野に入れた政策が必要であると感じる。

また、答申案の4にある、「明確な目標を立てる」ことはとても重要である。基本方針、取組方針はとても素晴らしいので、PDCAは年に1回のサイクルではなく、短いサイクルで実施をして、問題があれば随時計画を修正できる体制をお願いしたい。

(寫田委員)

資料1の「①人口減少と少子高齢化」のグラフにある生産年齢人口を確保する取組について、飯田市として何か行っていれば教えていただきたい。

(澤柳企画課長)

いいだ未来デザイン2028という飯田市の総合計画の中には、飯田市の若者に対する政策として、出産・育児に関する事など、若者の希望に沿った取組を政策的に進めているところである。また、若者の主体的な活動については、駅前にあるムトスぷらざで支援を行っている。来年度からの後期計画では、若者がこの地域に対して愛着を持ってもらえるよう、若者に対しての取組を積極的に進めていく予定である。

(寫田委員)

施設の老朽化により、使用していない施設があるという表記があったが、例えばスタートアップのベンチャー企業を誘致するなど、考えていることはあるのか。

(澤柳企画課長)

行っている取組の中で明確に説明できることとしては、2点ある。1点目は、市内の空き店舗を活用した企業の誘致や空き店舗を活用して新たな事業に挑戦してみたい方向への支援・店舗の改修を行っている。2点目は、新たにこの地域で事業を行いたい方向けにビジネスコンテストを開催しており、外からの視点を取り入れつつ、地域活性化に向けた取組を進めている。

(寫田委員)

資料1の2ページの図に、「労働力の減少」とある。飯田市が、ハローワークなどの求人で求められている職種に対応することで、新たに必要な職種が増えたりすることが考えられる。職業の選択を産学官連携で考えることはあるか。例えば、教育であれば、飯田市として併設してほしい学科はあるのか、外からの意見が聞きたい。

(澤柳企画課長)

取組の1つとして、若いうちからこの地域の産業を知ってもらい、将来のキャリアプランで、どのような仕事に就きたいかイメージをもってもらえるようにしている。

また、外からの人材を呼び込む政策の1つとして、結いターン移住定住推進課を中心に、この地域で必要としている人材を市外の皆様にも案内をしつつ、移住をしたいが働く場がない方たちに対してのマッチングを飯田市独自で行っている。ハローワークと飯田市独自で収集している求人情報をもとに、人材確保につなげている状況である。一方で、企業が求める人材に対する効果的な取組に関しては、まだ確立されていないのが現状である。しかし、飯田短期大学やこの地域にある高等教育機関の卒業者の大半がこの地域に就職していただいているため、企業が求める人材を確保するための教育機関については、引き続き、一緒に検討していきたい。

(下平会長)

質問に対しての担当部課の職員がこの場にいないこともあるため、その点をご容赦いただき、ご質問をお願いしたい。

(和田委員)

いいだ未来デザイン2028と飯田市行財政改革大綱のそれぞれの立ち位置を教えていただきたい。

(高田本部長)

いいだ未来デザイン2028は、あくまでも飯田市の総合計画である。現在、来年度から4年間の後期計画の策定を進めているところである。4年後にどのような市にしたいか、具体的な目標を持って総合的に各政策を組立てていくものである。

飯田市行財政改革大綱は、いいだ未来デザイン2028で定めた飯田市の総合計画を、各政策で進めていくために必要な人材、予算、財政基盤を確保し、飯田市の行財政が繋がっていくように支え

るための計画である。

リニア駅前広場や新文化会館の建設については、いいだ未来デザイン 2028 の中で決定し、実現するための財政基盤の確保について策定するのが飯田市行財政改革大綱であるのご理解いただきたい。

(和田委員)

今後策定される実行計画は、総合計画とリンクするのかわ。

(高田本部長)

例えば、飯田市行財政改革大綱の中に、職員を 800 人程度確保するとあるが、これはいいだ未来デザイン 2028 の中には記載されていない。いいだ未来デザイン 2028 の計画を実行していくために職員が 800 人必要であれば、確保することが飯田市行財政改革大綱の実行計画になる。財政状況を確認するのも飯田市行財政改革大綱である。

(森下委員)

施設管理に関して、現実的な話をさせていただく。上郷に下南多世代交流プラザがあり、建設から 30 年が経ち、老朽化が進んでいるが、地域住民で掃除や改修など協力をして使用している。また、高松児童館を廃止する話があるが、跡地をどう使用するかを組合の皆様へ声を掛けて、検討中である。

(松村委員)

飯田市行財政改革大綱を拝見し、この内容で実行されていくことを期待している。

他の委員からも意見があったが、人口増加に対する政策も取入れていただきたい。また、人材確保について、定年に縛られず、知識・経験が豊富な方が長く働けるような取組をしていただきたい。さらに、リニア駅周辺について、私は駅周辺に住んでいるが、駅になる予定の土地で地域の夏祭りが行われた。リニアの関係業者の協賛のもと、盛大な夏祭りとなった。建物がなくなり、とても寂しい状況であるので、工事の合間で利用できることがあれば、地域のために利用していただきたい。

(篠田委員)

少子高齢化により、地元のまちづくりや公民館も影響を受けている。

統合や廃止する施設について、処分の方法、その結果を教えてください。

(佐々木財政課長)

公共施設マネジメント基本方針に基づき、老朽化が進んだ施設の今後の対応について、庁内で協議をして方向性を決定しているところである。今までは、解体処分、売却をしている。対象施設は約 250 箇所もあるため、これから進めていくところである。公共施設の最適化に引き続き取り組んでいきたい。

(熊谷委員)

公共施設マネジメントの取組について、飯田市のホームページを拝見した。実際に施設の廃止となると、地域住民の方への説明はとても重要であると感じる。東京の府中市では、イラスト付きで分かりやすい資料を作成している。日頃から市民に公共マネジメントの取組の必要性について訴えてみてはどうか。

他の委員からも話があったが、人口減少対策について、たたき台の中で将来の最低ラインを想定し、それに対する対策を行うことは妥当であるが、人口増加、少子高齢化対策、歳入確保の目標もいれていただきたい。

(下平会長)

人口減少と少子高齢化において、今までも様々な政策をしてきたがなかなか改善されていない。大学進学時における人口流出は依然として変わらず、帰ってくる場所もなかなかないのが現状であ

る。リニア中央新幹線の開通により、大学通学が可能になるが、大学誘致を積極的に行っていたきたい。

また、公共施設について、新文化会館の協議をしているが、文化会館を県立にすることも、ご検討いただきたい。

松村委員からも話があったが、今後、定年延長が始まってくるので、有効に活用していただきたい。自治振興センターは、とてもありがたい存在であるため、定年延長となった職員が、地域に根差して働くことも良いのではないか。デジタルDXと職員の適正配置がどのように組合せられるかがとても重要である。高齢者に向けて、デジタルデバイドの配慮もお願いしたい。また、管理職が増えているように感じるため、部課の再編も議題にしていただくこともご検討いただきたい。

基金のあり方について、私の記憶では2001年には一般会計と特別会計の地方債が約900億あったが、現在は一般会計で300億を切った状況であり、大変努力をしているという印象である。

(寫田委員)

資料1の3ページ、「アプローチ(3)人づくりによる組織風土改革」に関して、愛知県庁では、職員が大学院に進学できるような制度があったが、実際に行政職員が何かチャレンジできるような機会はあるのか。

(伊藤人事課長)

定期的に行っているものではないが、希望者には、国の機関や他の自治体に出向し、行政を学ぶ機会がある。

(寫田委員)

「新たな価値を生み出す」と記載されていたので、例えば大学院で研究するなど、新たな知能を創造するような体験を職員ができるの良いのではないか。

資料1の4ページに「デジタル化による行政サービスの提供」とあるが、ドローンを活用した医療分野の遠隔診療などは検討しているのか。

(高田本部長)

飯田市立病院では、検討をしているが具体化はされていない状況である。しかし、阿南病院と売木村国保直営診療所をリモートでつなぎ、大きな病院と診療所の遠隔診療の実証を進めているところである。

(寫田委員)

先日、名古屋国際会議場にて行われた日本看護管理学会の学術集会に出席した際、遠隔診療の研究成果の報告をしていたので、今後必要になってくるのではないかと感じ、意見させていただいた。

(下平会長)

事務局から、今までの質問・意見に対して回答できることがあれば説明していただきたい。

(佐々木財政課長)

資料3の1ページをご覧ください。上の部分に記載してある飯田市行財政改革大綱のたたき台についてご協議をいただいております、下の部分に記載してある大綱に基づく実行計画をこれから策定していくところである。実行計画は、2028年度までの具体的な目標を設定し、吟味しながら取り組んでいくものである。今後、事務局で実行計画の内容を検討し、飯田市行財政推進委員会の皆様にも内容をお示しし、本年度中に大綱と同時に策定したいと考えている。より具体的な取組の内容に関しては、実行計画の策定の中でお示しさせていただきたい。

(胡桃澤委員)

今後4年間で実行計画を行うということだが、財政課だけではなく、全庁関わってくる内容であると思うが、全庁にはどのように周知させるのか。

(佐々木財政課長)

財政課は事務局として取りまとめをしている。庁内の体制として、各部長をメンバーとする行財政改革推進本部会議があり、そこで議論し、決定した内容を庁内へ周知させている。新たな飯田市行財政改革大綱と実行計画に関しても、同じ手順で進めていきたいと考えている。

(下平会長)

本日出された意見に関しては、事務局を通じて各担当課へしっかりと伝えていただきたい。

この議論の取扱いについては、次のようにさせていただく。

- ・策定の方向性に関する意見等は、飯田市行財政改革大綱のたたき台に反映できる部分は、事務局でたたき台を修正するなどした上で、次回の委員会で確認し、協議することとする。
- ・策定の方向性に関する意見等で、答申の付帯意見のような形で追加するかどうかなどの議論についても、次回の委員会で協議する。
- ・行革の取組で、具体的な手法などについての意見や提案は、今後、大綱に基づく実行計画の策定の中で実現できるよう、今後の協議に引き継ぐ。
- ・個別の政策や事業に関する要望事項については、事務局から、それぞれの担当課へ伝えていただくこととする。

これをもって、今回の協議のまとめとさせていただく。

5 今後のスケジュール 【岩崎行革・施設マネジメント係長説明】

○今後の行財政改革推進委員会の開催予定

- ・第4回（令和6年10月3日（木）10：00～12：00）
次期行財政改革大綱について（協議・答申）
- ・第5回（令和6年11月下旬）
次期行財政改革大綱及び実行計画について（協議）
- ・第6回（令和7年3月頃）
次期行財政改革大綱及び実行計画について（報告）

6 その他

7 閉会

(高田副市長)

本日は、長時間にわたり、貴重なご意見・ご質問をいただき感謝申し上げます。いただいた質問に関しては、行革本部会議にて、各部長と改めて協議をし、実行計画へつなげていきたい。

1つ、課題提起をさせていただく。今後、この地域の人材を育てていくうえで、次の高校改革が心配である。平成25年に飯田工業高校と長姫高校が統合し、現在は飯田長姫OIDE高等学校となっている。おそらく令和10年頃から次の高校改革の検討が始まると予測される。この地域を担っていく人材をどう育てていくのか、長い年月をかけて検討していく必要があると、皆様のご意見を聞きながら感じた。

本日は長時間にわたり、ご審議いただき感謝申し上げます。次回の飯田市行財政改革推進委員会でのご協議もお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。